



令和7年8月7日

志木市長 香川 武文 様

志木市総合振興計画審議会  
会 長 星 野 敦 子

第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画 将来構想）  
について（答申）

令和7年5月2日付け志政第7号で本審議会に諮問された第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画 将来構想）について、本審議会では5回にわたり審議を重ねた内容（別紙）が反映されており、適正であると判断します。

なお、将来ビジョンで掲げる将来像を実現するため、本審議会の意見については今後も十分に配慮されるよう要望いたします。

## 別紙

### 志木市総合振興計画審議会意見

#### 総 括

第二次志木市将来ビジョンは、まちづくりの基本的な考え方として次の5つのコンセプトを掲げています。

- ・互いに支えあい、健康に自分らしく暮らせるまち
- ・子育て世代が住みやすいまち
- ・「市民力」が躍動するまち
- ・安全・安心に暮らせるまち
- ・「知りたい」が見つかる、「伝えたい」が届くまち

そして、この5つのコンセプトを基に、10年後の志木市を展望したまちの将来像である

『よりそう想い 広がる絆 いいね！がいっぱい 志木のまち』

の実現に向けて、市民と市が協働してまちづくりを推進していくものとしています。

今後、第二次志木市将来ビジョンに基づき、市民がずっと住み続けたいと思えるようなまち、子育て世帯や若者にとって住みたいと選ばれ続けるまちを目指し、積極的に施策の展開を図ることを期待します。

#### 「将来構想」に対する主な意見

- ・ 市の特色でもある「市民力」の考え方にある「支え合い」の要素に力点を置くこと。
- ・ 子育て世代への取組は非常に重要であるが、高齢者や福祉施策についてもしっかりと盛り込むこと。
- ・ 市域面積が小さいからこそ、「つながり」や「支え合い」等が魅力となる。人間関係の間隔が近いからこそ、「寄り添い」や「関わり合い」が強みになる。コンパクトシティとしての利点を打ち出すこと。
- ・ 人と人との出会いや関わり合いなど、自分の居場所があるまちづくりが重要である。
- ・ 計画期間である10年間という枠に捉われず、「住みやすいまち」を根底に据えること。

- ・ 「子育て世代が住みたくなるまち」について、まず市民が住みやすく子育てをしやすいまちにすることで定住につながり、また、実感した市民の声の発信により「住みたくなるまち」をつくりあげていくという考えのもと「子育て世代が住みやすいまち」に変更された。
- ・ 学校のPTAを巡る環境が変わりつつある中、先生と子どもだけでなく親や地域も含めた連携が重要である。地域全体で子どもを育てることで、子どもたちは地域への愛着が深まり、持続可能なまちづくりへとつながる。地域と子どもとの関わりの要素を追加されたい。

### 「第三期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対する主な意見

- ・ 地方創生のコンセプト【育む】について、「結婚、妊娠・出産」に加え出産後の子育てにも力をいれていくことが重要である。
- ・ 地方創生のコンセプト【暮らす】について、ターゲットを20歳から40歳としているが学生のうちから志木に住み、定住につなげることも必要である。
- ・ 躍進する魅力的な地域づくりには、「人づくり」が重要であるため追加されたい。
- ・ 「住むなら志木市」と思われるまちづくりを進めることが重要である。
- ・ 本計画から第二次志木市将来ビジョン前期実現計画と一体的に策定されている第三期まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的施策について、示している施策の掲載箇所をわかりやすく示すこと。